

は既に述べたるところにして、更に各組合の本年中に於ける主要なる活動に就て其の内容を窺へば次の如くである。

先づ其の指導的立場にある組合會議九州地方協議會の第三回年次大會（十一月二十八日）に於ける決議事項を觀れば、一、福岡縣産業委員會の設置、二、營利職業紹介の振廢並に公營職業紹介所機能擴充、三、労働強化に伴ふ賃金値上、四、九州地方協議會加盟團體青年部統一組織化、五、凶作地農民救濟等が擧げられて居り、福岡縣九州研究會の第七回年次大會（十月二十一日）に於ては、一、福岡縣産業委員會の設置、二、セメント産業國家統制とセメント聯合會未加盟會社參加要求、三、全産業團體保險反對、四、會社專用組合排撃、五、工場法違反摘廢、六、労働者募集取締令の撤廢、七、人夫名簿による臨時工使用反對、八、公傷者に日給金額支給要求、

九、定期昇給復活要求等を決議してゐるが、所謂産業委員會なるものは縣下の産業と労働を統制する機關たらしめんとするものであり、日本労働組合會議の建議案たる「産業と労働の統制」の方針より出でたるものである。

次に福岡縣九州<sup>聯合</sup>研究會の中堅團體たる製鋼労働組合小倉支部にありては既述の如く労働會館の建設を見たと、従來の消費組合を産業組合法適用の購買組合に改組し得たこと、本年度組合運動<sup>上</sup>に於ける異彩なりと稱はざるべからず。

同じく九聯の中堅的團體たる日本石灰坑夫組合に於ても本年九月組合事務所として木造二階建（約壹千圓を投ず）の家屋を得ることが出来たのであつて、現在飯塚市を中心に田川、鞍手、粕屋の各郡に夫々支部連絡委員會を設け、日常集款なる運動を展開しつつあり、其の同年題目には暴力行爲不當勞